

放課後等ディサービス・児童発達支援 夢門塾 自己評価表

| | |
|-----------------|-----------------|
| 記入日: | 2020 年 1 月 12 日 |
| 事業所名: 夢門塾ゆうゆう相生 | |

| | | チェック項目 | はい | どちらともいえない | いいえ | 改善目標、工夫している点など |
|------------------------------|---|--|----|-----------|-----|---|
| 環境 ・ 体制整備 | ① | 利用定員と指導訓練室のスペースは適切である | 6 | | | 全体を広く使えるよう、放課後等ディサービス・児童発達支援で運動室の利用時間を分けている |
| | ② | 職員の配置は適切である | 4 | 2 | | 個別対応が必要な場合、人員が必要になってくる |
| | ③ | 衛生面の管理が行き届いている | 5 | 1 | | 排煙窓しかないため、朝から空気清浄機を作動させたり、玄関のドアを開けて空気を入れ替えたりして対応している |
| 業務 改善 | ④ | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定を振り返り)に、広く職員が参画している | 5 | 1 | | 人数が多いため、伝わりにくいこともあるので、業務日誌等、全員が目にするものに記入しておくなど、工夫している |
| | ⑤ | 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者様の意見を把握し、業務改善につなげている | 6 | | | 保護者様の意見を把握し、職員全員で話し合い、改善につなげている |
| | ⑥ | 自己評価の結果を公開している | 6 | | | 毎年、ホームページで公開をしている |
| | ⑦ | 職員の資質向上のため、会議・研修の機会を確保している | 6 | | | 毎月、職員会議・カンファレンス等を行い、必要に合わせ事業所内研修も行っている |
| 適切 な 支援 の 提 供 | ⑧ | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者様のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を立てている | 6 | | | モニタリングを行い、保護者様のニーズを聞きながら、個別支援計画を立てるように進めている |
| | ⑨ | 活動の計画をチームで行っている | 6 | | | 職員間で月間予定を話し合い、計画を立てている |
| | ⑩ | 活動の計画が固定化しないよう工夫している | 6 | | | 今年度はコロナウィルスの影響で活動に制限があったが、室内でもできることを考えながら進めている |
| | ⑪ | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め、細やかに設定し、支援している | 6 | | | 計画書を立てて、一日がスムーズに流れるよう支援をおこなっている |
| | ⑫ | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、活動を計画している | 6 | | | マンツーマン対応が必要な利用者様に対しては、個別でできることを考え対応している |
| | ⑬ | 支援開始前に、職員間で打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 6 | | | 朝礼後、その日の支援についての役割分担を決めている |
| | ⑭ | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | 6 | | | 利用者様帰宅後、提供記録を記入し、その日の様子が全職員に伝わるようにしている |
| | ⑮ | 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している | 6 | | | 6か月ごとの期間は区切っているが、必要に応じ2か月・3か月でモニタリングを行い見直しをすることもある |
| | ⑯ | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている | 6 | | | ガイドラインを確認し、理解し組み合わせながら支援を行っている |

| | | | | | |
|---------------|---|---|---|---|---|
| 関係機関、保護者様との連携 | ⑯ 学校との情報共有(年間計画・行事予定等予定の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行えている | 6 | | | 学校の予定表をいただき、送迎時間の変更等、トラブル発生がおこらないよう心がけている |
| | ⑰ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所または学校等との情報共有と相互理解に努めている | 4 | 2 | | 就学前の利用所との情報共有する場がとりにくい、必要な際には、場をもうけていけるよう努めていく |
| | ⑲ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供している | | 5 | | 現在、移行した利用者がいない、今後、必要な児童がいるときには、情報共有をおこなっていく |
| | ⑳ 児童発達支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | 4 | 2 | | 児童発達支援の見学をさせてもらった、今後、研修の機会を設けてていきたい |
| | ㉑ 日常的に子どもの状況を保護者様と連携し、発達状況や課題について共通理解を受けている | 6 | | | 送迎時や連絡帳、フィードバックを通し、その日の様子を伝えたり、困っていること等、共有できるようにしている |
| 保護者様への説明責任等 | ㉒ 運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | 5 | 1 | | 契約時にわかりやすく説明することを心がけている まだ聞かれたことがないが、聞かれた際には説明できるようにしておく |
| | ㉓ 保護者様からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、必要な助言を行っている | 6 | | | 保護者様からのニーズに合わせ、相談に応じている |
| | ㉔ 保護者会等を開催し、保護者同士の連携を支援している | — | — | — | コロナ対策のため本年度は開催が困難であった |
| | ㉕ 子どもや保護者様からの苦情について、対応体制を整備、周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | 6 | | | 保護者様からの意見をスムーズに聞き、迅速に対応している |
| | ㉖ 定期的に会報等発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信している | 5 | 1 | | 児童発達支援でのフィードバック以外の情報発信方法を考えていく |
| | ㉗ 個人情報保護に十分注意している | 6 | | | 個人情報の取り扱いには十分に注意をはらっている |
| | ㉘ 障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている | 6 | | | 必要に合わせ絵カードを使用し、それを保護者様と共有している |
| | ㉙ 地域の行事に参加したり、事業所に地域住民を招待する等し、地域に開かれた事業運営を行っている | 1 | 2 | 1 | 今年度はコロナウィルスの影響で活動に制限があった、状況に応じて来年度は参加できるよう、情報収集をしている |
| | ㉚ 緊急対応、防災、感染症マニュアルを策定し、周知している | 6 | | | すぐに見えるようにマニュアルを用意し、周知している |
| 非常時などの対応 | ㉛ 非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を行っている | 5 | 1 | | 年に2回、定期的におこなっている |
| | ㉜ 虐待防止のため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | 6 | | | 全職員、虐待防止の研修を受けている |
| | ㉝ いかなる場合も身体拘束を行うか否かについて、組織的に決定し、子どもや保護者様に事前に十分説明し、了承を得た上で支援計画に記載している | 6 | | | 該当する利用者様はいない |
| | ㉞ 保護者様に記入いただいた与薬表をもとに、子どもへの投与を行い、チェックを行っている | 5 | 1 | | 投与する児童が少なく、まだ投与したことがないので、いつでも投与できるよう学んでおく |
| | ㉟ ヒヤリハットを綴り、事業所内で共有している | 6 | | | 少しのことでもヒヤリハットにあげ、職員が共有できるようにしている |